

マルコバン *Trachinotus blochii* (Lacepède) の 三浦半島相模湾岸からの記録

萩原清司*

Record of *Trachinotus blochii* (Lacepède)
from shore of the Miura Peninsula in
Sagami Bay

Kiyoshi HAGIWARA *

キーワード: 魚類, 分布, アジ科, 無効分散,
横須賀市

Key words: fish, distribution, Carangidae,
invalidated dispersion, Yokosuka City

マルコバン *Trachinotus blochii* (Lacepède) はアジ科コバンアジ属の魚類で、同属魚類は日本沿岸から本種のほか、コバンアジ *T. billonii* (Lacepède)、コガネマルコバン *T. mookalee* Cuvier in Cuvier & Valenciennes、ヨコヅナマルコバン *T. anak* Ogilby の4種が知られ、いずれもインド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布している (瀬能, 2013; 和田ほか, 2019)。これまで Senou *et al.* (2006) の定義による相模湾からは、コバンアジ (Senou *et al.*, 2006)、写真情報のみのコガネコバンアジ (岩槻ほか, 2000) が報告されているほか、伊豆半島下田からマルコバンが記録されている (本田ほか, 2024) が、マルコバンの三浦半島からの報告はない。

この度、2012年に三浦半島の三浦市松輪から記録された神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵の写真情報 (KPM-NR152823, 152824, 152825)、および2021年に三浦半島の横須賀市秋谷において採集され横須賀市博物魚類資料として収蔵されていた標本 (YCM-P46651) がマルコバンの三浦半島からの初記録となることが判明したため、ここに報告する。

標本の計測方法は Smith-Vaniz (1984) に従い、分

類は瀬能 (2016) と和田 (2019) に従った。標本の計測にはノギスを用い、脊椎骨の観察には軟X線写真を用いた。鰭条、鰓把、歯の観察にはサイアニンブルーによる染色を行った。生鮮時の色彩は固定前に撮影したカラー写真に基づく。

本稿をまとめるにあたり、神奈川県立生命の星・地球博物館の和田英敏学芸員には写真情報の提供にあたってご協力をいただいた。ここに記して感謝の意を表する。

材 料

マルコバン *Trachinotus blochii* (Lacepède)

写真資料: KPM-NR152823: 神奈川県三浦市松輪 (漂流物に随伴: 35°08'43"N, 139°40'05"E), 20120915, 水中写真, 江藤幹夫撮影。KPM-NR152824, 152825: 神奈川県三浦市松輪 (漂流物に随伴: 35°08'43"N, 139°40'05"E), 20121010, 水中写真, 江藤幹夫撮影。

標本資料: YCM-P46651 (第1図): 神奈川県横須賀市秋谷 (久留和海岸の砕波帯: 35°4'48"N, 139°35'32"E), 20211016, 投網, 萩原清司採集。

撮影・採集地点図を第2図に示す。

記 載

各部位の計測値 (mm): 全長 87.2, 尾叉長 77.2, 標準体長 68.9, 頭長 21.8, 体高 36.8, 眼径 7.8, 第1背鰭高 4.1, 第2背鰭高 17.0, 臀鰭高 15.5, 胸鰭長 14.7, 腹鰭長 10.0, 尾柄長 5.1, 尾柄高 6.2, 尾鰭長 22.5。

標準体長に対する各部位の比率 (%): 尾叉長 112.0, 頭長 31.6, 体高 53.4, 眼径 11.3, 第1背鰭高 6.0, 第2背鰭高 24.7, 臀鰭高 22.5, 胸鰭長 21.3, 腹鰭長 14.5, 尾柄長 7.4, 尾柄高 9.0, 尾鰭長 32.7。

各部位の計数値: 背鰭条数 V-I, 18, 臀鰭条数 III, 17, 胸鰭軟条数 18, 腹鰭条数 I, 5, 尾鰭分節軟条数 9+9=18, 脊椎骨数 10+14=24, 鰓把数 8+9=17。

形態: 体は楕円形でよく側扁し、吻は円い。口裂は小さく上顎骨後端は眼の中央直下に達しない。舌

* 横須賀市自然・人文博物館 〒238-0016 神奈川県横須賀市深田台 95

原稿受付 2024年8月15日 横須賀市博物館業績 800号

Corresponding author: Kiyoshi HAGIWARA, k-hagiwara@jcom.home.ne.jp



第1図 YCM-P46551 マルコバン *Trachinotus blochii* (Lacepède) 生鮮時標本写真。

上に小歯を有する。第1背鰭の鰭膜は連続せず棘は遊離する。第2背鰭および臀鰭は前方軟条部が鎌状に伸長する。胸鰭は伸長せず先端は第2背鰭始部直下に達しない。腹鰭先端は肛門に達しない。尾鰭は浅く二叉し、先端は伸長しない。

生時の色彩：背部は銀灰色、腹部は銀白色で顕著な斑紋はない。背鰭および臀鰭の伸長部は黄褐色で黒色素をともない先端でより黒くなる。背鰭および臀鰭の伸長部以外の部分は白色。胸鰭は基部上半～第1軟条の1/3にかけて黄褐色でその他は白色。腹鰭の棘とその周辺は淡黄色で他は白色。尾鰭は上下縁が黒色素をともなった黄褐色で、中央部は白色。

ホルマリン固定後の色彩：背部は淡灰褐色で腹部は白色、頭部は淡灰褐色で涙骨上は白色。背鰭と臀鰭は白色で伸長部には黒色素がある。腹鰭と胸鰭は白色。尾鰭の中央部は白色で上下縁や基部には黒色素がある。

日本産同属他種との比較

以下に日本産同属他種との比較について述べ、カッコ()内には供試標本 YCM-P46651 における形質を示した。

コバンアジは、吻が尖る(吻は円い)、体側に黒

点がある(黒点はない)、背鰭軟条数21~25(18)、臀鰭軟条数20~24(17)であることから区別される(瀬能, 2013)。

コガネマルコバンは、体は全体に黄色味を帯びる(黄色味を帯びない)、臀鰭第3棘から第7軟条まで明るい金属光沢を帯びた黄色(臀鰭第2棘から第4軟条まで黒色素をともなった黄褐色)、胸鰭は全体に暗褐色(基部を除き白色)であることで区別される(岩槻ほか, 2000)。

ヨコヅナマルコバンは、眼は頭高の中位より下に位置する(中位より上に位置する)、眼の前方が上顎より突出する(眼の前方は上顎より前方に突出しない)、舌上に歯を有しない(歯を有する)、鰓耙数 $3+8=11$ ($8+9=17$)、臀鰭軟条の伸長部は黄色である(黄褐色で黒色素をともなう)ことから区別される(和田ほか, 2019)。

加えて供試標本は、本村ほか(2019)に写真が示された標準体長67.5 mmのマルコバン KAUM-I 51322 と計測値およびその比率、色彩などが酷似していた。以上のことから、供試標本はマルコバンと同定された。

考 察

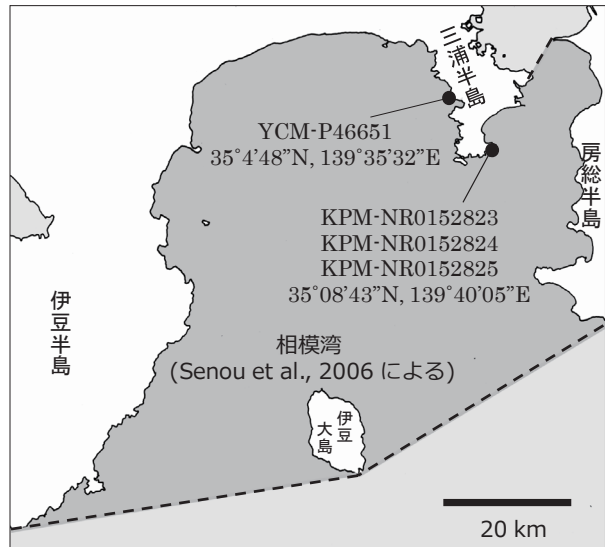
本属魚類は成長にともなって形態が大きく変化する

ることが知られている (瀬能, 2013; 本村ほか, 2016; 和田ほか, 2019) が, 幼魚期の形態や色彩については比較検討された研究がなく, 特に国内ではコガネマルコパンと明らかな標本 (宮崎大学農学部水産科学講座資料: MUFS 12564) が標準体長 204 mm の 1 個体のみであることから, 本研究では供試標本と同程度の大きさの幼魚との比較が行えなかったことで, 色彩以外の識別点が見つけられなかった。色彩は標本状態や個体によって差異が生じること, ホルマリン固定によって失われることから, さらなる研究によって分類形質の明確化が求められる。

三浦半島における本種の出現は, 本報告で示した記録が全て幼魚であること, 三浦半島相模湾岸では 8 ~ 11 月にかけて熱帯・亜熱帯に起源をもつ無効分散 (死滅回遊) 魚種が多く見られること (林, 1995) と時期が一致することなどから, 無効分散による過来的なものと考えられた。また, 筆者は黒潮が三浦半島における無効分散魚種の出現に影響を与えることを述べているが (萩原・瀬川, 2022), 2017 年から 2024 年時点においては, 特に黒潮の影響が強くなると考えられる大蛇行が続いており (海上保安庁, 2024), YCM-P46551 個体が得られた 2021 年時点では, 黒潮の大蛇行が南方種の無効分散を助長していた可能性が示唆された。しかし, KPM-NR15823~15825 が撮影された 2012 年には黒潮の大蛇行は観測されておらず, 三浦半島におけるマルコパンの出現が黒潮の大蛇行に起因するとは考えにくい。マルコパンと同様な分布域をもつオニカマスの幼魚が, 2000 年代に入って三浦半島から頻繁に記録されるようになったことが地球温暖化による海水温の上昇に関係することを推察しているが (萩原ほか, 2020), マルコパンにおいても海水温の上昇による仔稚魚の生残率の向上や分散の量の増加などが出現要因である可能性が高いと考えた。

引用文献

- 萩原清司・原田莉緒・石渡陽人・大島雛子・畠山葉南・多田かの 2020. 三浦半島におけるオニカマス *Sphyræna barracuda* (スズキ目; カマス科) の出現状況. 横須賀市博研報 (自然), (67): 29-32.
- 萩原清司・瀬川 渉 2022. 黒潮のめぐみー海流が運



第2図 三浦半島におけるマルコパン *Trachinotus blochii* (Lacepède) の撮影・採集地点図。

- んだ生き物と文化一. 48 ページ. 横須賀市博物館 特別展示解説書 18.
- 林 公義 1995. 横須賀市博物館付属天神島臨海自然教育園海域の魚類相—魚類相の環境指標化への試み—. 横浜国立大学環境科学研究センター紀要, 21(1): 243-258.
- 本田康介・瀬能 宏・和田英敏 2024. 相模湾産魚類目録 (改訂). 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (53): 127-218.
- 岩槻幸雄・本村浩之・戸田 実・吉野哲夫・木村清志 2000. 日本初記録のコガネマルコパン (新称) *Trachinotus mookalee*. 魚雑, 47(2): 135-138.
- 海上保安庁 HP. 海上保安庁海洋情報部, 2024. 海洋速報&海流推測図バックナンバー. <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/KAIYO/qboc/backnumber.html>. (2024 年 8 月 10 日参照)
- 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 2019. 436 ページ. 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- Senou H., Matsuura K. and Shinohara G. 2006. Checklist of fishes in the Sagami Sea with zoogeographical comments shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence of the Kuroshio Current. *Men. Natn. Sci. Mus., Tokyo*, (41): 389-542.
- 瀬能 宏 2013. アジ科. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定 第三版, 690-705, 1318-1320. 東海

- 大学出版会, 東京.
- Smith-Vaniz W. F. 1984. Carangidae. In Fisher W. and Bianchi G. eds. *FAO species identification sheets for fisheries purposes-Western Indian Ocean Fishing area* 51, Vol. 1: 522–530. FAO, Rome.
- 和田英敏・伊藤正英・本村浩之 2019. 鹿児島県から得られた日本初記録のアジ科魚類 *Trachinotus anak* ヨコヅナマルコバン (新称). 魚雑, **66**(2): 181–186.